

農業委員会 だより

第 90 号
令和4(2022)年
8月1日発行
〈編集・発行〉
大田原市農業委員会
大田原市本町1-4-1
TEL.0287-23-8716

E-mail/nougyou@city.ohatawara.tochigi.jp



好評! 「女性のための農機具講習会」

女性農業委員グループ「チームあゆみ」が女性にも安全に安心して農機具を取り扱ってほしいとの思いから企画し、多くの方にご参加いただきました。

参加者からは「GPS付きトラクター運転などの貴重な体験ができた」「いつも使っている農機具の安全な扱い方が分かり、有意義だった」との声をいただきました。

写真は「女性のための農機具講習会」にて、笑顔の参加者・関係者一同集合写真

2ページに詳しく紹介しています。

農地パトロールの実施について(8月から10月)

農業委員会では、毎年、遊休農地の実態把握と違反転用発生防止のため、市内の農地をまわり農地パトロールを実施しています。パトロールにより不適切な利用が確認された所有者などに対し、今後の農地利用について利用意向調査を行います。

農作業に伴う道路の泥汚れ防止について (お願い)

農作業後に田畑から公道へ出る場合は、泥を落としてから走行するようにしましょう。道路に落ちた泥や土の塊は、車の走行や歩行者の通行の妨げになり大変危険です。やむを得ず道路を汚してしまった場合は、速やかに泥などの撤去を心がけましょう。



6/4

女性のための 農機具講習会を開催



市ホームページで動画を掲載中

◀管理機の指導を受ける参加者

農業委員会では、昨年に引き続き、「女性のための農機具講習会」を開催しました。市内在住の女性21名と、視察研修として高根沢町から2名の女性農業委員が参加。ほ場の準備や農機具の提供、講師には、今年もJAなすの・JAなすのサービス(株)、農機メーカーのご担当者にご協力いただきました。

農機具は、トラクター、管理機、草刈り機の3種類を準備。GPS付きのトラクターを操作した参加者からは感動の声をいただきました。最新の管理機が安全性に優れ、扱いやすいことに皆さん驚いていました。

また、農機具の展示販売やファン付作業着、帽子等の農業女子向け作業着販売コーナーも賑いを見せていました。参加者の生き生きとした笑顔が素敵でした。私たち女性農業委員もこれからますます頑張ろうと気持ちを新たにしました。今後も続けてほしいとの声が多く出ていますので、また開催できるようにしていきます。

(文：相馬和恵)



最新のGPS付きトラクターに乗る参加者▶

3/22

農業委員・推進委員 合同研修会開催

本市農業委員会主催の研修会が開催され、来年度からの農業委員会における最適化活動の推進について事務局より説明を受けました。

具体的には、最適化活動に係る目標が設定されることや、人・農地プランの目標地図作成について、また、毎月報告している委員としての活動記録について記入様式が変更となるとの内容でした。



変更となる活動記録簿は、活動時間や活動内容の詳細を記載することになり、戸惑いを感じましたが、日々の活動を書き留めておき、習慣化できるように、取り組んでいきます。

(文：高瀬隆至)

委員活動報告

5/31

全国農業委員会 会長大会・栃木県選出 国会議員への要請会に参加して

東京都渋谷公会堂で開催された全国農業委員会会長大会に、荒井会長、事務局とともに参加しました。大会では、国に対する政策提案等の議案が審議され、すべて原案通り議決されました。全国的に深刻な後継者不足に対し、国がどう考え、方向づけるか注視していきたいと思えます。

また、大会前には栃木県選出の国会議員に対して、県農業会議国井会長から政策提案の要請書を渡しました。米どころ大田原の農家の一員として、米価低迷や米余りの問題を打破するため、高騰する輸入小麦に代わる「米粉」に期待したいと思えます。米粉製造工場設置に向けた政策を国や県へ要望していきます。(文：鈴木賢一)



衆議院第一会館にて

↑荒井会長と鈴木職代

3/14

6/24

人・農地プランの取り組み 北滝・片田地区

北滝・片田地区は、人・農地プランのモデル区域となり、プラン実行のための取り組みを行っています。

3月には北滝・片田地域営農勉強会を開催し、当地域がモデル区域となった経緯の説明や地域農業の将来計画の具体的な取り組みや考え方について意見交換会を行いました。また、今後継続的に勉強会を開催していこうと、新たに「北滝・片田の未来の農業を考える会」を立ち上げました。

6月の会合では、担い手・受け手の何らかの集落営農組織を作らなければならないとの意見が出ました。今後も話し合いを継続し、プラン実行を一步步進めていきます。(文：阿見芳)



北滝・片田地域営農勉強会の様子



市内各地区で活動する

農地利用最適化推進委員についてご紹介します



渡邊政義推進委員長

農地利用の最適化のため、担当地区の農地を定期的にパトロールし、農業委員や農業公社と連携し、農地の貸借や売買のあっせん、遊休農地の発生防止・解消、新規就農の促進などを行っています。市の非常勤特別職の地方公務員です。

農地に関する困りごとがありましたら、私たち農地利用最適化推進委員にご相談ください。

農地利用最適化
推進委員紹介
ページ



◆主な活動内容◆

- 1 人・農地プラン、地域農業者の話し合いのコーディネートをしています。
- 2 農地をパトロールし、地域の農地が適切に利用されているか確認。また、遊休農地の発生防止・解消に努めています。
- 3 農地の出し手と受け手の意向について聞き、農業委員や農業公社と連携し、調整をします。
- 4 農地転用許可申請等の現場を確認し、現場の意見を農業委員会総会に届けています。
- 5 地域の農業の担い手（新規就農者）を発掘、相談・就農後のフォローをします。



連載 産直 情報

道の駅那須与一の郷 「農産物直売館」 (よいち産直会)

(南金丸1584-6 ☎23-8641)

那須与一の郷「農産物直売館」は、よいち産直会の会員が心を込めて育てた新鮮野菜や果物のほか、大田原のお米、農産物加工品、お花などを販売しています。

8月上旬からは梨の販売もスタート。栃木で生まれた新品種「おりひめ」も販売します！

8月11日から13日の3日間は、お盆切花をご提供させていただきます。

地元で生産された旬の果物や野菜を使った手作りジェラートもおすすめ♪ぜひお立ち寄りください。

(文：農政課)



◆ 休館日

年始（1月1日～3日）、12月から翌年2月までの毎週月曜日

◆ 営業時間

農産物直売館及び加工・物産館
9：00～17：00

(冬季は営業時間が異なります。)

◆各地区の農地利用最適化推進委員◆

任期：令和2年7月20日～
令和5年7月19日

● 大田原地区	
東地区	斎藤 信雄（若草）
北地区	◎磯 利男（紫塚）
西地区	木下 伸一（浅香）
● 金田地区	
中田原	阿久津 功（中田原）
町島・荒井・岡・今泉・戸野内	小針 貞夫（戸野内）
富池・市野沢・練貫	吉際 昇（練貫）
羽田・乙連沢・小滝	松本 光正（羽田）
北金丸	◎佐藤 貞男（北金丸）
南金丸	藤田 一義（南金丸）
上奥沢・奥沢	熊田 幸雄（上奥沢）
鹿畑・倉骨・赤瀬・大和久	引地 卓人（鹿畑）
● 親園地区	
親園北区・実取	森 浩一（実取）
親園南区・滝沢	岩城 善広（親園）
滝岡・花園	◎福原 正浩（花園）
宇田川・荻野目	藤田 信一（宇田川）
● 野崎地区	
下石上・上石上・野崎	矢板 隆夫（下石上）
薄葉・平沢	◎沼野井和夫（薄葉）
● 佐久山地区	
岩井町	南須原輝夫（佐久山）
桜町・上町・仲町・下町	八木澤 郁（佐久山）
荒町・新町・松原・平山・佐久山南部・大沢	◎関谷 弘（佐久山）
藤沢・琵琶池・大神（南部）	菅野 清隆（福原）
大神（本田）・福原	伊藤 健次（福原）

● 湯津上地区	
狭原・小船渡・中の原	石井 俊雄（湯津上）
湯津上（中の原を除く）	市村 進（湯津上）
佐良土	川又 豊藏（佐良土）
蛭畑（品川を除く）	◎吉成 一夫（蛭畑）
蛭田（品川を除く）	渡邊 敏夫（蛭田）
新宿・片府田・品川	伊藤 俊夫（新宿）
● 黒羽地区	
黒羽町・八塩・北滝	川上 充（北滝）
前田・堀之内	小室 正善（堀之内）
北野上	◎川嶋 雅彦（北野上）
片田・亀久・矢倉	田代 保（片田）
● 川西地区	
黒羽向町・大豆田・余瀬	◎渡邊 政義（黒羽向町）
蜂巢・桧木沢	室井 佐稔（蜂巢）
寒井	石井 久夫（寒井）
● 両郷地区	
中野内	石塚 聡（中野内）
河原・両郷	小河原 明（河原）
寺宿・木佐美	関谷 謙一（木佐美）
大久保・久野又	益子 悟美（大久保）
大輪・川田	◎大森 清五（大輪）
● 須賀川地区	
須佐木	大塚 幾夫（須佐木）
須賀川	菊池 義治（須賀川）
雲岩寺・川上・南方	◎鈴木 正夫（南方）

()内は住所地 ◎は地区代表

連載

よろしくお祈いします 第7回 よしなり たかし 吉成 敬さん(蛭畑)

今回は大田原市蛭畑にお住まいの「吉成 敬」さん(30歳)をご紹介します。

2年前まで東京でコンピュータ会社にお勤めされていた敬さん。新型コロナの影響で在宅勤務が続き、部屋から一步も出ない日もある中で、ご両親のことが心配になり、実家に戻り就農することを決意されたそうです。

現在、家族経営で、冬春トマトを約30畝、夏秋トマトを13畝、水稲8畝を生産し、市内のスーパーや市場に出荷しています。

また、敬さんが戻ってきてまもなく、近所でトマト栽培をやめる方からハウス約17畝を譲り受けました。コスト節減にと、移築作業を頑張っており、今秋の定植に

向け、準備されています。

一方、吉成さん宅では、農家民泊で毎年多くの学生を受け入れています。今年5月には横浜からの中学3年生5人を2泊3日で受け入れました。民泊は色々な出会いや新たな発見があり、これからもぜひ続けていきたいとのこと。

今後については、「自分には恵まれた環境があるので、父から生産技術を受け継ぎ、仕事としてしっかりやっていきたい」ということです。また、地域の高齢化で、稲作を頼まれることが多くなってきているので、受け手として、地域の農地を守っていきたいとのことでした。

インスタグラム【#吉成トマト】で発信していますので、フォローをよろしくお祈いします。

(聞き手：秋本則夫)



▼ 8月下旬から出荷予定のミニトマト。味の違いを楽しんでください。



これから就農する方へのメッセージ

農業は体力仕事なので向き不向きはあると思いますが、居心地のとてもよい環境で日々仕事ができます。興味ある方は、ぜひ見に来てください。

農業者年金で豊かな未来を

つのだ たけお
角田 剛雄さん(40)
ともえ
友枝さん(41)
(佐久山)



8月中旬頃からみずみずしい梨が出来てきます♪
「つのだ果樹園」にお立ち寄りください。

父から経営を受け継いだ際に、経営を見直し、友人から節税になると聞いていた農業者年金に40歳になる前にご夫婦で加入しました。

「入らないと損ですよ」と剛雄さん。「自分で積み立てておくのは難しいので、年金として積み立てながら節税できることは魅力」と友枝さん。

加入のご相談は農業委員会事務局またはJA窓口まで

編集後記

農業の担い手は高齢化、後継者不足が進み、地域の農地をどう守るかが見通せません。これを解決するには人・農地プランの実行が不可欠です。各行政関係機関と連携し地域に合ったプラン実行に取り組んでいきます。
(副編集委員長 阿見芳)



令和3年度 第28回 農業委員会だより 全国コンクール

優秀賞 受賞!

このたび全国農業会議所主催の第28回「農業委員会だより」全国コンクールで「大田原市農業委員会だより」が、全国第2位となる優秀賞を受賞しました。

今後も「農業委員会の活動を地域の皆様方にご理解していただきたい、また地域農業に親しみを持ってもらいたい」との思いで編集委員一同、記事執筆、編集に一層努力していきます。
(編集委員長 助川悦夫)



左上から 高瀬隆至・秋本則夫・笹沼保治・越沼良屋代幸子・阿見芳・助川悦夫・相馬和恵